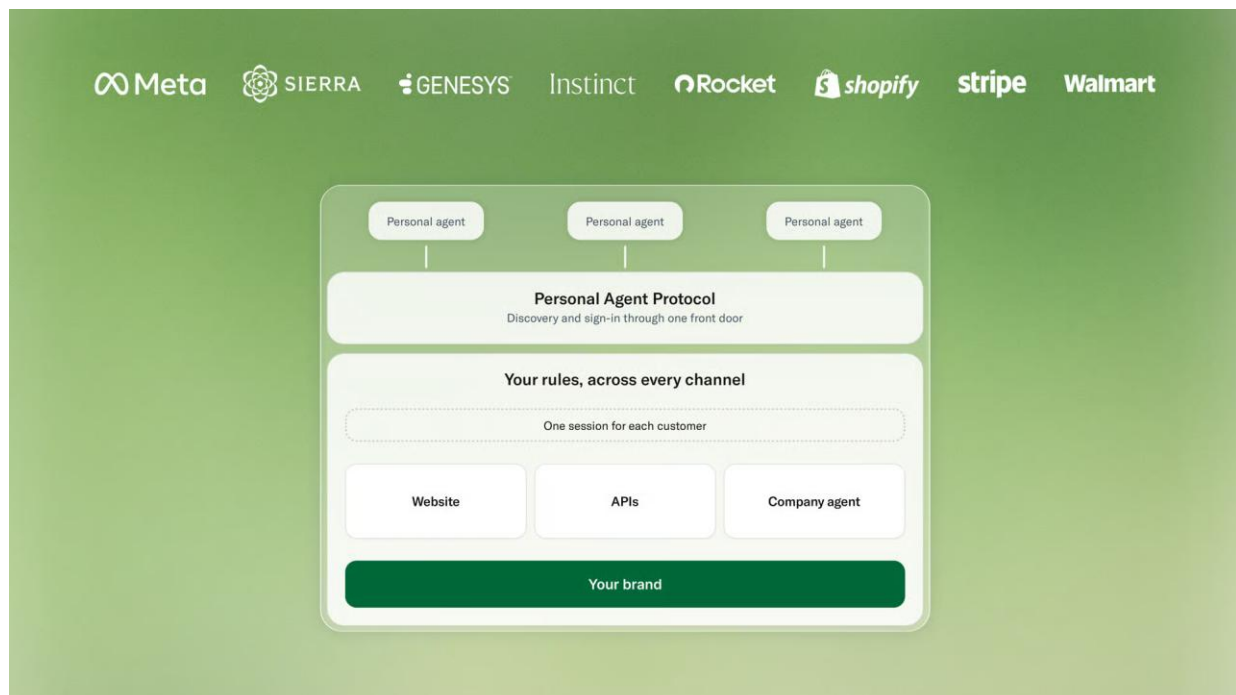


報道関係者各位

2026 年 10 月 14 日
ストライプジャパン株式会社

Stripe、Meta などと共同開発するパーソナル AI エージェント向け オープンスタンダード「Personal Agent Protocol」を発表

- Stripe は Meta や Sierra、Genesys、Instinct、Rocket、Shopify、Walmart と共同で、パーソナル AI エージェント ^{*1} と企業間の連携方式を定義するオープンスタンダード「Personal Agent Protocol」を発表
- 認証処理や消費者の権限管理、AI エージェントの行動可視化を実現し、パーソナル AI エージェントが複数の企業やサービスをまたいで安全かつ効率的にタスクを実行できる共通基盤の確立を目指す



プログラマブルな金融サービスを提供する Stripe は 2026 年 10 月 6 日 (米国時間)、Meta および Sierra などと共同で開発するパーソナル AI エージェント向けオープンスタンダード「Personal Agent Protocol」を発表しました。10 月中に v0.1 仕様を公開し、開発者支援にリファレンス実装の提供を予定しています。

Personal Agent Protocol は、Meta と Sierra が中心となり、Stripe、Genesys、Instinct、Rocket、Shopify、Walmart とともに開発を進めているオープンスタンダードで、パーソナル AI エージェントと企業間の連携方式を定義するものです。認証処理や消費者の権限強化および、ウェブサイトや API、企業側の AI エージェント上におけるパーソナル AI エージェントの行動を可視化する仕組みの実装を目指して設計されており、誰でも実装可能なオープン規格です。

パーソナル AI エージェントに求められるニーズと課題

現在、ほとんどのパーソナル AI エージェントは人間と同様に、ウェブサイトやアプリを介し、ページの読み込みやフォーム入力を行い、それで解決できなければサポート窓口に電話したり、ウェブチャットを利用したりという手段を講じます。このような人間が操作することを想定して設計された UI では、パーソナル AI エージェントにとってタスクを完了するのに余計な時間を要するだけでなく、タスク完了自体に失敗するリスクを伴うという課題がありました。しかし、パーソナル AI エージェントと各サービスとの直接接続が確立できれば、同じタスクを安全に数秒で完了させることができるようになります。

パーソナル AI エージェントを広く普及させるためには、あらゆるサービス上でこの接続を機能させる必要があります。セキュリティはすべての人が求める要素ですが、それ以外は、立場によってパーソナル AI エージェントに求めるものが異なってきます。

- **消費者：スピード・信頼性・確実性の追求**
自分の利益のために行動してくれると信頼できるパーソナル AI エージェントによって、最初から確実にタスクを完了することを求めます。
- **企業・ブランド：可視性と統制権限の確保**
パーソナル AI エージェントが顧客のために動いていることを把握しながら、その AI エージェントの権限を自社で主体的に決定しコントロールできる体制を求めます。
- **パーソナル AI エージェント開発企業：効率性とアクセス性を重視**
各企業とスムーズに連携するための、直接的かつ単一の連携方法を必要としています。

Personal Agent Protocol の仕組み

現在構築中の Personal Agent Protocol の基本原則は、消費者がパーソナル AI エージェントの権限範囲を決めた上で、さらに企業側もその AI エージェントの自社サービス上での行動範囲を制限するパラメーターを設定するというものです。これにより企業は、既存のウェブサイトや API、あるいは独自の AI エージェントを通じて、最善の方法で消費者のパーソナル AI エージェントと連携できるようになります。

Personal Agent Protocol は、まずウェブサイトを起点とします。パーソナル AI エージェントはウェブサイト上で企業が提供するサービスとその利用方法を確認し、ユーザーに代わってセッションを開始します。ゲストユーザーとしてセッションを開始することも可能で、商品の在庫確認や返品ポリシーの問い合わせ程度であれば、ゲスト利用で十分対応できます。一方、ユーザーアカウントへのログインが必要なタスクでは、企業のウェブページから直接ログインするか、パーソナル AI エージェントに事前に保存された認証情報を使用します。主導権は常にユーザーが保持し、は AI エージェントに対して「読み取りのみ」のアクセスを許可するか、「書き込み」権限まで付与するかを自ら決定します。

本プロトコルにおけるセッションは、アクセス認可の標準規格である OAuth *² をベースに構築されています。複数のチャンネルをまたいでセッションが維持されるため、ログイン前の質問も、ログイン後の注文変更も、一連の同じやり取りとしてシームレスに処理されます。パーソナル AI エージェントは、各企業が最適と判断した以下のいずれかのルートを通じてタスクを完了します。

- **ウェブサイト**：企業の標準的なウェブページ上を自動で操作・ナビゲート
- **API**：MCP や OpenAPI などの標準規格に準拠した API インターフェース経由で直接連携
- **企業側 AI エージェント**：保証申請など、複雑な対話や手続きを要するタスクを企業側の AI エージェントと連携して処理

本プロトコルにより、企業は提供範囲を自社でコントロールしながら、パーソナル AI エージェントは単一の連携方法を得ることで、消費者はより素早く確実にタスクを完了できるようになります。

より安全な連携基盤をパートナーと共創

本プロトコルの開発において、導入企業やパーソナル AI エージェント開発者との共創を重視し、幅広いパートナーの参画を歓迎しています。なかでも、パーソナル AI エージェントを手がける Instinct の参画は、本取り組みにおいて極めて重要な意義を持ちます。

今後の機能拡張により、顧客と企業が特定の操作に対してより緻密に権限を制限することができるようになります。また、プッシュ通知を活用すれば、フライトの遅延や注文商品の発送情報を企業がパーソナル AI エージェントへ即座に届けることができます。さらに、決済機能の拡張により、クレジットカード情報を共有せずにパーソナル AI エージェントが購入まで完了することも可能になります。

パーソナル AI エージェントが日常生活における多様なタスクをより多く担うようになる中、企業は消費者に対して信頼できる体験を提供し続けながらパーソナル AI エージェントと連携するための、明確で安全な仕組みが求められています。企業とパーソナル AI エージェント開発者の双方が、共通の顧客のために協調してタスクを完了できるよう、Personal Agent Protocol はその基盤を提供します。

Stripe の決済部門責任者であるケビン・ミラー (Kevin Miller) は次のように述べています。

「顧客との関係は、決済（チェックアウト）の瞬間だけで完結するものではありません。顧客が自身の代理として AI エージェントを活用する際も、直接サービスを受ける場合と変わらない質の高い体験が期待されています。企業が顧客の AI エージェントを正しく認識し、効率的に連携しながら信頼関係を深められる標準規格を提供すべく、Stripe は Personal Agent Protocol の開発に貢献して参ります。」

*1 パーソナル AI エージェント

企業がカスタマーサポートや社内業務の自動化など、特定の業務目的で導入する AI エージェントとは区別して、個人ユーザーの代理で動く AI エージェントは「パーソナル AI エージェント」と呼ばれています。ユーザーから与えられた権限の範囲内で、複数の企業・サービスにまたがるタスクをユーザーに代わって実行します。Personal Agent Protocol は、こうしたパーソナル AI エージェントと企業が、安全かつ効率的に連携するための共通の仕組みを定める、策定中のオープンなプロトコルです。

*2 OAuth (Open Authorization)

ユーザーが連携先のアプリケーションやサービスにパスワードを共有することなく、自分に代わって、許可した範囲のデータや機能にアクセスする権限を付与できる、業界標準の認可の仕組み。

#####

Stripe について

Stripe は、プログラマブルな金融サービスを構築する企業です。世界の何百万もの企業が Stripe を利用して、オンラインおよび対面での決済や組込型金融、収益モデルのカスタマイズを推進し、より収益性の高いビジネスを築いています。サンフランシスコとダブリンに本社を置く Stripe は、世界の GDP の 1.6% に相当する年間 1.9 兆ドル (約 300 兆円) 以上の決済を処理しています。AI とステーブルコインにフォーカスを置いた事業拡大と研究開発への投資を通じて、Stripe はグローバル経済における最先端技術の普及に貢献しています。

詳しくは <https://stripe.com/jp> をご覧ください。